

平成 27 年度越境大気汚染・酸性雨対策検討会において指摘された課題と  
その対応の進捗状況について

アジア大気汚染研究センター

平成 28 年 3 月 17 日に開催された平成 27 年度環境省越境大気汚染・酸性雨対策検討会で指摘された課題とその対応の進捗状況は以下のとおり。

	指摘された課題	発言者	対応の進捗状況
1	東京局について地域代表性の有無は検討されているのか、今後詳細を詰めていく必要があると結論付けられているがその方法は検討されているのか。	大原委員	平成 28 年 10 月～11 月に東京局で PM <sub>2.5</sub> , PM <sub>10</sub> , O <sub>3</sub> , NO <sub>x</sub> 計のテストモニタリングを実施し、近傍の常時監視局とのデータ比較を行った。
2	東京局について地域代表性の有無は SO <sub>2</sub> のみの解析では不十分と考える。今後機器が新設される可能性も考え、スペースが十分とれるかといった点も考慮する必要がある。	坂本委員	1 のテストモニタリングの結果を精査して、地域代表性について検討した。また、科学技術館担当者との設置スペースについての協議を行った。
3	伊自良湖局について問題点としてガス・エアロゾルデータの地域代表性が挙げられているが、資料前段で乾性沈着速度算出に用いる気象データにも問題があるとしているならば結論にも含めるべきである。	大原委員	結論部分に気象データも問題点として追記した。
4	伊自良湖局のデータを解析に使用しない範囲を明確に示すべきであるとする。	大原委員	大気 WG において、伊自良湖局のサイト選定基準への適合性を検討する際に、併せて検討した。
5	伊自良湖局の物質収支の調査においては大気系での沈着量評価には不確かな部分があることがわかってきたが、考えられうる不確かさを見込んでこれまで観測されて	太田委員	生態 WG としては、集水域への流入量として妥当な沈着量が得られることが主要な目的であることを確認した。現時点で考えられる不確かさを考慮しても、これまでの観測から得

	きた傾向は間違いないと思われる。今後調査を継続する上で移設により継続性が途絶えることも問題であると思う。		られた結論は変わらないことから、現状の推計でも大きな問題はないと考えられている。
6	伊自良湖局は移設が必要と考える。局舎は山の斜面に位置しており、湿性沈着の測定においても問題がある。例えば全員で伊自良湖を訪問するなど、より立ち入った議論が必要である。	村野委員	平成 28 年 6 月に伊自良湖局の現状確認調査を行うとともに、大気 WG において、伊自良湖局のサイト選定基準への適合性の検討を進めた。早急な対策として、平成 28 年度末までに気象マストに隣接する高木および測定局舎の周囲 5m 程度の木枝を伐採・剪定する予定である。
7	2012 年 9 月以降伊自良湖局 NOx*の日平均値推移が 0 近くを推移しており、バックグラウンド濃度としても低すぎるため測定に問題がなかったか確認願いたい。	西川委員	平成 26 年 4 月～11 月まで NOx 計故障による長期欠測があったが、現在は正常に稼動しており、これ以外に測定異常が考えられる情報は報告されていなかった。
8	平成 26 年 5 月において粒子状物質濃度が上昇しているため、黄砂も疑われるが原因について推測できることを記載願いたい。	西川委員	5 月 28 日～6 月 2 日ごろに全国的に黄砂の飛来が観測されており、これが濃度上昇の原因と考えられる。
9	吉野熊野で pH(KCl)の値が減少したが他成分と対応していないと説明があったが、平成 21 年の 0-10cm における pH(H <sub>2</sub> O)及び pH(KCl)が同じ値であり通常考えられないため、測定に問題がなかったか再度確認したほうがよい。	伊豆田委員	提出された生データ等を確認した。小数点第 1 位までで示されたプロットの平均値では、pH(H <sub>2</sub> O)及び pH(KCl)が両方とも 4.1 となっていたが、小数点以下第 2 位まででは 4.14 と 4.09 であり、誤記等でないことが確認された。また、平成 21 年度の自治体報告書やデータ検証資料においても、測定異常等の可能性は指摘されていない。
10	平成 20～24 年の報告書において pH の一年ごとの中央値からトレンド解析を行ったように、当時は	原委員	指摘のあったサイト区分や 15 年中央値といった解析手法について平成 25～29 年の報告書作成を別途今後各

	<p>データがなく暫定的に行った解析が多くあるため、これまでに蓄積されたデータを用いて解析が妥当であるかを再度検討する時期に来ていると思う。サイト区分について降水量で分けた経緯があるが、イオン成分の傾向が同一であるのかの検討は十分でないため再度検討する必要がある。15年中央値であれば全地点について一年ごとに統計結果を検討してそれを積み上げた形で中央値が妥当であるということを確認する必要がある。</p>		<p>WG で検討する。</p>
11	<p>光化学オキシダント調査検討会では3年ごと移動平均値の92パーセンタイル値又は98パーセンタイル値がオゾンの長期変動を確認するには適当であろうと提言されているため解析に取り入れることを検討してはどうか。</p>	坂本委員	<p>大気 WG において、オゾンの長期変動を解析するための統計値について検討を進める。</p>
12	<p>WG での検討時に使用した根拠資料も示していただくと議論がより効率的にすすむため、来年度以降の資料でご対応願いたい。</p>	大原委員	<p>平成 28 年度検討会資料作成の際に、WG 検討時の資料も<a href="#">掲載するように準備を進める参考資料として添付した。</a></p>
13	<p>WG の詳細な内容がわからないため、調査結果がどういった位置づけで実施されているのか不明な部分がある。そのあたりも説明した資料を作成していただきたい。</p>	新藤委員	<p>平成 28 年度検討会資料は実施内容の目的に対する位置づけを詳細に記載することを念頭に置き、作成準備を進め<a href="#">るた。</a></p>
14	<p>本検討会の目的はわが国及び東アジア地域における越境大気汚染・酸性雨に係る課題や今後の越境大気汚染・酸性雨対策のあり方について総合的に検討することである</p>	大原委員	<p>平成 28 年度検討会の議題について、環境省及び ACAP で指摘事項を検討する。また長期トレンドを示す資料を追加するように準備を進める。</p>

	<p>が、現在はモニタリングデータの評価のみが主であり、進め方を事務局と環境省で議論されたほうがよいと思う。また長期トレンドの把握も目的であるため、トレンドを把握できるような資料も加えていただきたい。</p>		
15	<p>EANET 局は Data Report2014 で公開されているが、国設局のデータは ACAP のホームページに掲載する等公開体制の整備を進めていただきたい。</p>	原委員	<p>ACAP ホームページ上に環境省の公表ページにリンクを貼る。生データの公開方法については、環境省と協議の上 ACAP ホームページで周知を行う方向で準備を進める。</p>